

# 1 物語

1

(1) 灰色

(2) 別

(3) 海水浴

(4) 季節

(5) 平気

(6) 望遠鏡

(7) 助

2

(1) ア  
(2) ウ  
(3) イ

3

(1) (例) 通ちゃんに会いたいという、こみあげてくる感情。

(2) 仕事に集中

(3) イ

(4) ア

(5) オレンジの

## 《解説》

(1) 「こんな」は、ふつうすぐ前に述べた内容を指します。  
「こんなヤツ」は、とおろ通ちゃんに会いたい気持ちが強くなつて、自分でもどうすればよいかわからなくなっている状態を表しています。

(2) 直後の「まるで、死体のように目は物を見ていない」も同様の様子で、どちらも気持ちを仕事のことだけに集中させている通ちゃんを表します。

(3) 通ちゃんがあまりにも仕事に集中しているので、「私」わたしは、ネコを鳴かせるのもえんりよしています。

(4) 通ちゃんは、やっと仕事の世界から現実の世界にもどり、「私」におどろいたのです。

(5) イラストの失敗作にバツテンをつけて、かき直しをしていることがうかがえます。

## 2 物語

1

(1) 昨晚  
(2) 羽毛  
(3) 片方  
(4) 独白  
(5) 確信  
(6) 不気味(無気味)  
(7) 期待

2

(1) ウ  
(2) ア  
(3) イ

3

(1) やりたくて  
(2) イ  
(3) (例) もう坂をのぼるのはやめようと決心した。  
ほんとうに  
(5) (例) ずいぶん遠くまで来たことをこうかいし、帰れるかどうかが不安な気持ち。

### 《解説》

(1) 「やりたくてやれないことのかずかずの重荷が背につもりつもった」少年は、海を見ることでその重荷が少しでも軽くなるのではないかと考えたのです。  
(2) 歩き疲れて、足がぼうのようになった様子を表すことばを入れます。  
(3) どこまで行っても「はてしない上り下りのくりかえし」なので、海を見ることは不可能だと思い、「もう、やめよう」と決心して、少年はその場にすわりこんでしまします。  
(4) どこまでいっても上り下りの連続で、海が見えると思っただこと自体がまちがっていたのではないかと考え始めた少年は、投げやりな気持ちになっています。この内容を表す部分をさがしましょう。  
(5) ここまで来た同じ道のりだけ帰らなければならぬので、遠くまで来てしまったことをこうかいしています。

「日はしだいに高くなる」とあり、今は昼に近い時間であることがわかります。つまり少年は朝出発したので、帰りは、真昼の暑い中を歩かなければならないのです。

---

### 3 物語

1

(1) 尊 (2) 満潮 (3) 無理 (4) 失望 (5) 熟 (6) 幹 (7) 敬

2

(1) イ (2) イ (3) ア

3

- (1) 幻の魚・瀬の主・大魚  
 (2) (例) 水面から顔を出して息をすうため。  
 (3) 自分に殺されたがっている  
 (4) 漁師  
 (5) (例) 瀬の主を、死んだ自分の父親の生まれ変わったすがただと思った。

#### 《解説》

- (1) 「これが自分のおいもててきた幻まぼろしの魚」、「村一番のもぐり漁師だった父をやぶった瀬せの主」「この大魚」の三カ所からぬき出します。  
 (2) 太一たいいちは、潜水道具せんすいどうぐなどは身につけていないので、「息がくるしくなつて、またうかんて」いかなければならないのです。  
 (3) すぐ前に「この大魚は自分に殺されたがっているのだと太一は思った」とあります。  
 (4) 「一人前の」とあるので、太一の職業を表すことばをぬき出します。  
 (5) 「村一番のもぐり漁師だった父をやぶった瀬の主」とあることから、太一の父は瀬の主を求めて海で死んだことがわかります。太一は、今まさにその瀬の主と思われる魚と対面し、その魚が「海のいのち」であると感じて、殺すことをやめようと思います。その理由を自分で自分に納得なつさせ

るために、クエが父の生まれ変わりであると考えたので  
す。

# 4 説明文

1

(1) 神経

(2) 除

(3) 障子

(4) 容易

(5) 比

(6) 研究

(7) 価値

2

(3) (2) (1)  
ア イ ウ

3

(1) 人間

(2) イ

(3) (例) 人間と自然とは対立するものであるという考え方。

(4) 永遠にその形を残す

(5) ア

## 《解説》

(1) 第二段落の最初の文に「人間は自然の一部」とあることに着目します。

(2) 「この思想」は、仏教の輪廻の思想のことで、建物は自然の一部であるとする考えであり、イはその逆になります。

(3) ヨーロッパの考え方の中で、この段落の初めにその内容が書かれています。人間と自然が対立することを中心にまとめましょう。

(5) 日本では木が好まれた理由を、仏教の二つの思想をもとに、二つあげることが文章の主な内容です。

## 5 説明文

1

(1) 敵  
(2) 割  
(3) 属  
(4) 加  
(5) 計略  
(6) 未熟児  
(7) 協力

2

(1) ア  
(2) ウ  
(3) ア

3

(1) とくべつな理由  
(2) (例) 友引は葬儀屋の定休日なので葬式をしないという考え方。  
(3) (例) 人が死んだら早く葬式をするのがふつうなので、葬儀屋に休まれるとこまるから。  
(4) イ  
(5) エ

### 《解説》

(1) もともと、どの日に何をするかよいとかよくないということはなく、昔の人が単に便利のために決めておいたただけだと書かれています。

(2) 「葬式をやると悪い日」ではなく「葬儀屋さんの定休日」というこれよりあとの内容をまとめます。

(3) 「葬式は人が死んだらできるだけ早くやるのがふつう」なので、「人がなくなつたというのに休みもなにもあるか」と言われることになり、それを防ぐために、友引を定休日のようなものにしておくということです。

(4) 前の文が理由となつて、あとに結論が導かれているので「ですから」が入ります。

(5) 文章中では、筆者は仏滅に結婚式をすることも、友引に葬式をすることも、何もさしつかえはないと考えていることを読み取りましょう。

## 6 説明文

1

(1) 危害  
(2) 開閉  
(3) 我  
(4) 源  
(5) 至  
(6) 視野  
(7) 将来

2

(1) ウ  
(2) イ  
(3) ウ

3

(1) (例) 短くて急で、こうずいがおきやすい川。  
イ  
(2) イ  
(3) 水とのたたかい  
(4) ふった雨を土に返そう  
(5) イ

### 《解説》

(1) 「あばれ川」とはどんな川なのかを、最初の段落内容から読み取ってまとめましょう。

(2) **ア**と**イ**は反対の内容が書かれているので、どちらが「ふさわしくない」かを考えます。段落の最後に「はんらん原だからこそ、水害のきけんな場所でした」とあるので、**イ**が逆の内容になります。

(3) 「水とのたたかい」を「治水」というと書かれています。

(4) 「ひとくちでいえば」を手がかりにしてぬき出します。

(5) **ア**は、日本の川が短いことは書かれていますが、世界で最も短いかどうかはわかりません。**イ**は、「日本人はそのあばれ川をじょうずにおさめて、そこに文化をきずいていきます」に合っています。**ウ**は、はんらん原は、そこがきりひらかれて文化がきずかれた場所ですが、「つねに」「中心」であったかどうかはわかりません。**エ**は、「生かすべき」が書かれていません。

7 詩

1

(1) 若 (2) 太陽 (3) 作詞 (4) 眼下 (5) 億万 (6) 背中 (7) 像

2

(1) イ (2) ウ (3) ア

3

(1) かもめくん  
(2) (例) 早くあたたかい春になってほしいという気持ち。  
(3) (例) かもめくんが、つばさを「ぼく」に一日、かしている間。  
(4) エ  
(5) イ

《解説》

(1) ①行目に「かもめくん ぼくに一日」とあることからわかります。  
(2) 春をひっぱってくるとは、早く春になってほしいという気持ちを表したものです。  
(3) かもめはつばさを「ぼく」にかし、「ぼく」は自てん車をかもめにかすことになります。  
(4) 「かもめ」「春」などを人に見立てています。またこのほかに、第一連と第二連が全体として対句たいくになっています。  
(5) 「ぼく」は、かもめにつばさをかしてほしいとたのんでいるので、イが合います。アは、シオヒガリにさそっているのは町の人たちです。ウは、自てん車をかしてほしいとたのんでいるので、乗れることがわかります。エは、春がどこかの島であそんでいる相手が「まっくろくろ」の子どもであり、「ぼく」ではありません。

8

ことばのきまり

1

(1) 郵便局

(2) 演奏

(3) 劇的

(4) 誠実

(5) 就職

(6) 温泉

(7) 冊子

2

(1) ウ  
(2) ア  
(3) イ

3

(1) (例) 弟は、成績が いい ので有名だ。

(2) (例) 兄が 登った 山は、あれだ。

(3) (例) 雲が 流れる 空を、ぼくと兄は見上げた。

(4) (例) うちの犬は、しっぽが 短い。

1

(1) 創造

(2) 蚕

(3) 縦

(4) 納

(5) 庁舎

(6) 最善

(7) 諸国

2

(3) (2) (1)  
ウ イ ア

3

(1) (例) 姉は、知性と教養をそなえた女性だ。

(2) (例) 電化製品は年々進化している。

(3) (例) 試合で、不利な立場になる。

(4) (例) 兄は美的な感覚に欠けている。

## 《解説》

(1) 「〴〵性」は、名詞の下について、その性質を持っていることを表します。

(2) 「〴〵化」は、主に名詞の下について、そういうもの・状態に変える、変わるということを表します。

(4) 「〴〵的」は、主に名詞の下について、その様子や、それに近い状態にあることを表します。

# 10 漢字の知識

1

|     |     |     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| (1) | (2) | (3) | (4) | (5) | (6) | (7) |
| 砂   | 背景  | 加盟  | 頂上  | 就業率 | 敬語  | 片側  |

2

|     |     |     |
|-----|-----|-----|
| (1) | (2) | (3) |
| イ   | ウ   | ウ   |

3

|                       |                    |                    |                       |
|-----------------------|--------------------|--------------------|-----------------------|
| (1)                   | (2)                | (3)                | (4)                   |
| ① (例) 一日十五分の散歩を習慣とする。 | ② (例) 週刊の雑誌が創刊される。 | ① (例) 新しい機械を整備する。  | ② (例) かれと仲よくなる絶好の機会だ。 |
|                       |                    | ① (例) 部屋をヒーターで暖める。 | ② (例) コーヒーをポットで温める。   |
|                       |                    |                    | ① (例) 一夜にして戦場と化する。    |
|                       |                    |                    | ② (例) 試合前には自主練習を課す。   |

# 11 随筆

1

(1) 積極的

(2) 争

(3) 晩

(4) 意識

(5) 改

(6) 初夏

(7) 忘

2

(1)

(2)

(3)

イ

ア

ア

3

(1) 平ら

(2) 私の発した

(3) 工

(4) ・(例) 目的達成のための有効な手段となる点。

・(例) しばしば目的と化してしまう点。

## 《解説》

(1) お茶は「チャー」を尻上がり<sup>しり</sup>に発音しなければならぬのに、平らに言ってしまったために別のものがきたことが前に書かれています。

(2) 「私」は、日ごろ用いていない言語（ここでは中国語）でも、文法にそって発音すれば相手に伝わることで、道具として機能するという実感を得たのです。

(3) 前文で「言葉」を話題の中心にして、目的ではないと述べています。

(4) 「目的達成のための有効な手段となる」こと、また、「お金も〈手段〉という本来の役割<sup>わ</sup>を忘れられて、目的と化してしまう」とあることなどがあげられます。

## 12 随筆

1

(1) 優先  
(2) 暖  
(3) 目鼻  
(4) 横  
(5) 泣  
(6) 無事  
(7) 示

2

(1) ア  
(2) ウ  
(3) ア

3

(1) ならした  
(2) 夫への尊敬と信頼  
(3) イ  
(4) 女房  
(5) ア

### 《解説》

(1) 文章末の女房のことばから、これ以前に、「私」は子供どもの頃、野球でならしたと話していたことがわかります。「ならした」は、そのことをよく経験して、得意であったということです。

(2) 「女房には夫への尊敬と信頼を…」と書いていましたが、逆に「私」の打球を女房がファインプレーでキャッチしたので、「私」の望みは消えてしまったということです。

(3) 守備位置を変えておくことは「卑怯」ではなく、作戦の一つですが、あえて「卑怯」ということで、負け惜しみの気持ちを表しています。

(4) 女房はファインプレーをして、「私」はエラーが続き、打つ方でも、同様に女房が「私」を上回っているの、その差で勝敗が決まったと子供たちは言っています。

(5) エラーの言い訳わけをしている場面です。「四十肩かたなら、しかたがない」と思っほしいのです。

# 13 随筆

1

(1) 下手  
(2) 関心  
(3) 難  
(4) 異  
(5) 実際  
(6) 降車  
(7) 用件

2

(1) ア  
(2) イ  
(3) ア

3

(1) (例) 喫茶店のマスターが、犬を連れて入店するのはだめだと言うため。  
(2) ウ  
(3) ア  
(4) イ  
(5) (例) ベルナを連れてこの店に来ること。

## 《解説》

- (1) 直後の「ごめんなさい。犬はお断りしているもので」が、喫茶店のマスターの言葉であることを読み取ってまとめます。
- (2) 盲導犬として訓練された犬なので、他の客に迷惑をかけることはないと言明したかったのです。
- (3) 「〜かねる」は「〜できない」という意味を表します。
- (4) ペットとしてかわれている犬と、訓練された盲導犬は、おおきなちがひがあることを客たちは話しています。
- (5) 客が理解してくれたことや、盲導犬についての知識をあたえてくれたことから、マスターは最初の「お断り」を引っこめて、今後はこの店に通ってほしいという気持ちをこめて「ワンちゃんの席に決めよう」と言っています。

1

(1) 雑誌

(2) 担当

(3) 誕生日

(4) 私的

(5) 水洗

(6) 展開

(7) 蒸気

2

(1) ア

(2) イ

(3) イ

3

(1) (例) これだけあれば生活上間にあうということば。

(2) (例) 深い、かすかな味わいがわかった、という意味。

(3) (例) 別の言い回しが必要になったとき。

(4) エ

(5) イ

## 《解説》

(1) —— 線①の直前に「これ」とあるので、その指示内容をもとにまとめましょう。

(2) 直後の『深い、かすかな味わいが分かった』では、文章の調子、文体としてだめなときがある」をもとに、設問に合う形に直してまとめます。

(3) 文章では、同じ単語や言い回しをくり返して使うと、美意識がなくなることが述べられています。そこで、それをさけるために、同じ内容を別のことばで表現する語彙力が必要になります。これが「そのとき」にあたります。

(4) 「言語の能力がある」とはどういうことを述べたエが適切です。

(5) アは「生活環境が変化」「言語生活が貧弱」などは書かれています。イは「その一回のための単語を蓄えていること」に合います。ウは「時代によって変化する」「使い分けが大切」が誤りです。エは、前半の「一生に……」の内容も否定されていません。

1

(1) 警備 (2) 筋道 (3) 拡大 (4) 激流 (5) 供 (6) 地域 (7) 疑

2

(1) イ (2) ア (3) ウ

3

(1) (例) 道で出会った知らない人が、会釈やあいさつをしてくれるときの表情。

(2) むかしからの集落

(3) 人と人のであいの手ごたえ

(4) につこりほえむ

(5) 工

## 《解説》

(1) 筆者が足をむけたくなるので、これより前から、筆者を気持ちよくさせる内容の表情を述べている部分をさがしてまとめます。

(2) 筆者が住む新興住宅地<sup>たく</sup>のかたわらにあり、「表情地帯」と表現されている場所のことです。

(3) 「まったく無表情だから、人と人のであいの手ごたえがない」とあります。

(4) 日本人は「まったく無表情」であるのに対して、欧米<sup>おう</sup>の人は「につこりほえむだろう」とあります。

(5) アの「育てていきたい」、イの「おせっかい」、ウの「あやまらない」はそれぞれ直接話題にされていません。話題の中心を読み取って考えましょう。